

科目名	新聞学基礎	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

**【授業の概要】**  
 新聞学とは新聞社に関する学問のことではなく、ニュースにまつわる様々な社会的現象・制度を研究する学問である。そしてニュースはレビュー（評論）とともにジャーナリズムを構成している。そしてジャーナリズムはコミュニケーションの一機能である。この授業では、社会的行為、およびその行為主体としての「ジャーナリズム」を政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論的観点から説明する。基本的にはジャーナリズムの担い手としてマス・メディアを想定して、理論と事例を織り交ぜながら解説していきたい。

**【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)**  
 ジャーナリズムを政治・社会学の観点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にジャーナリズムに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

**【履修条件】**  
 特になし

**【授業方法】**  
 講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート

**【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)**

ルーブリック評価項目の内容	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
	達成されるべき具体的行動				関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
	A-1 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-2 日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-3 論理的・批判的思考力	A-4 問題発見・解決力	A-5 挑戦力	A-6 コミュニケーション力	A-7 リーダーシップ・協働力	A-8 省察力
①	新聞学の学問の射程と、基礎的な概念について説明することができる。				2			
②	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションについて概要を理解することができる。					2		
③	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関する問題点について、学生同士で議論することができる。							2
④								
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)	
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験/授業内試験)	論述問題を出題し、①②に関する到達度を評価する。	46	46										92
小テスト等	なし												
レポート等	なし												
討論・発表等	14回目の授業でディスカッションを行う。			4									4
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。			4									4
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		46	46	8									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版	大井真二編ほか	世界思想社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	無 実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	「新聞学（メディア・ジャーナリズム）」に関する議論の射程について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読してくること。	90分
	事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	90分
2	メディア化時代のジャーナリズム	「メディア化」した現代におけるジャーナリズムの問題と課題について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、「メディア化」の概念について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
3	ジャーナリズムの歴史・教育・制度 ①	ジャーナリズム史について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム史の基礎を理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
4	ジャーナリズムの歴史・教育・制度 ②	ジャーナリズム教育—ジャーナリズム・リテラシーについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム教育に関する基礎を理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
5	ジャーナリズムの歴史・教育・制度 ③	ジャーナリズムの法と倫理について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムの法・倫理について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
6	ジャーナリズムの生産過程①	事件・現実に関する情報の取捨選択（取材と報道）について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
7	ジャーナリズムの生産過程②	ニュース価値と選択性と「ニュースのコントロール」について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ニュース・価値論に関する基礎について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
8	ジャーナリズムの生産過程③	プロフェッショナリズムと客観性について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、客観報道主義について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
9	ジャーナリズムの生産過程④	ジェンダーとメディアについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、メディア研究におけるジェンダー問題について基礎的に理解できる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
10	ニュースのフレーム、ニュースにおける物語	ジャーナリズム研究における「フレーム」「物語」概念について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、「フレーム」「物語」といった概念に関する基礎的理解をすることができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
11	オルタナティブ・ジャーナリズム	マス・メディア以外のオルタナティブ・メディアによるジャーナリズムについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、オルタナティブ・ジャーナリズムに関する基礎的な理解をすることができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
12	グローバル化とジャーナリズム	グローバル化時代におけるジャーナリズムについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、グローバル時代におけるジャーナリズムについて基礎的な理解をすることができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
13	戦争と平和のジャーナリズム	戦争と平和についてジャーナリズムがどう関係してきたのか解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムが戦闘と平和について果たして来た役割について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
14	ジャーナリズム研究の批判的相対化	今までの授業を振り返り、ジャーナリズム研究が持つ問題性について解説する。	
	この回の到達目標	目標③に関連し、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。	
	事前学修	今までの教科書の該当範囲を振りかえり、ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	90分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
15	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
	事前学修	授業内試験の準備	160分
	事後学修	授業内の解説にもとづいて自己採点。	20分